

1. 単元名 学び続けるために

2. 本時の概要

本時は、これまでの探究活動の成果物制作・発送フェーズを完了した生徒たちが、「学び続けるために」というテーマのもと、自身の探究プロセスや学習スタイルを深く省察し、今後の自律的な学び方をデザインする100分(50分×2コマ)の授業である。これまでのプロジェクトを通じた「日々の小さな気づき(LIFEログ)」を起点としつつ、コルブの「経験学習モデル」と4つの「学習スタイル」の理論を手がかりに、自らの学びの特徴をメタ認知的に捉え直すことをねらいとしている。

前半(1時限目)は、2月最初となるLIFEログを入力し、日常のさまざまな活動の中で感じたことを言葉にする重要性を再確認する。その後、「『学び』とは何か」という本質的な問いかけから、具体的な経験を内省し概念化して実践につなげる「学習サイクル」や、個人の特性に応じた4つの「学習スタイル(発散型・同化型・収束型・適応型)」の理論について教員から解説を行う。

後半(2時限目にかけて)は、スクールタクトの課題「0221 学び続けるために」および配布資料を用いて、現在の自分の強み・弱みや将来目指したい学習スタイルについて自己分析を行い、グループワークでの他者共有を通じて学び方を拡張するアイデアを募る。

最後に、これまでのLIFEログを読み返し、「学びのサイクルを回しきれなかったこと」等を踏まえて、次回の授業までに実際に取り組む「アクションプラン」を策定し、自律的に学びを駆動させる一歩を踏み出す。

これらの活動を通じて、SSコンピテンシーである「メタ認知能力」を高め、実社会や日常生活と自己との関わりから自ら学びを豊かにしていく資質・能力を養うために本時を設定した。

3. 本時の目標

● 学習サイクル・スタイルを通じた自己の学びの客観的把握(知識・技能に関わる目標):

コルブの経験学習サイクル(体験・ふりかえり・アイデア創造・試行)および4つの学習スタイル(発散型・同化型・収束型・適応型)の理論を理解し、現在の自分自身の学びの特徴や得手不得手を客観的に捉えられるようになる。

● 他者との対話を通じた多角的な学び方のデザイン(思考・判断・表現に関わる目標):

自らの学習スタイルにおける課題や弱点を自覚し、グループワークによる他者との対話やアイデアの共有を通じて、今後の学び方をどのように工夫・補強すべきかについて、自分の言葉で表現・計画できる。

● 主体的なアクションプランの策定と学びの自律的拡張(主体的に学習に取り組む態度に関わる目標):

これまでのLIFEログの省察を基に、自ら学びのサイクルを回すための具体的な「アクションプラン」を主体的に策定し、新しい学習スタイルへの挑戦を通じて自らの学び方を積極的に拡張しようとする態度を養う。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第28回
 - 学習スタイル4タイプ
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2019)『課題研究メソッド Start Book』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント:
 - 学習スタイル4タイプ
- 参考・引用文献:
 - 青木久美子(2005)「学習スタイルに関する理論と概念—欧米の研究から学ぶ」『メディア教育研究』2(1),197-212
 - 梶田叡一(2023)『言葉の力を育てる』金子書房
 - 三宮真智子(2018)『メタ認知で〈学ぶ力〉を高める』北大路書房
 - 鈴木 克明監修・市川 尚・根本 淳子編著(2016)『インストラクショナルデザインの道具箱101』北大路書房
 - 鈴木克明・美馬のゆり編著(2018)『学習設計マニュアル—「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
 - 溝上慎一(2025)『主体性総論—主体性とは何か、なぜこれほど求められるのか』東信堂
 - 山中司・坂場大道・増田智香(2025)『探究学習のための「問い」の立て方』朝日出版社

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	① 本時の流れの説明 スライドに基づき、本時の全体の流れ(1)LIFEログ、(2)「学び」って何だろう?、(3)「自分の学び」を振り返る、(4)「学び」を駆動するために)を確認する。	本時からこれまでの探究活動での経験を踏まえた、自身の「学び方」そのものを探究する新単元であることを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
9分	② LIFEログの入力ワーク ・端末でスクールタクトを開き、「2月」の課題の1個目に日々の気づきや学びのプロセスについて入力する。 ・教科、部活、行事、日常生活などでの気づきを4～5行を目安に記述する。	・「日々の小さな気づき」の積み重ねがキャリア形成や自己の在り方や生き方につながる意義を説明する。 ・書くことで「経験の忘却を防ぐ」「振り返り吟味する」「他者と共有して新たな気づきを得る」効果があることを強調する。
10分	③「学び」って何だろう？(理論解説) ・教員からの問いかけ(「知識を覚えるだけが学び?」「知っていると分かっているの違いは?」等)について考える。 ・コルブの「経験学習モデル」(体験する→ふりかえる→アイデアを創る→試してみる)の4段階のサイクルについて理解する。 ・情報認識の縦軸(感じるー考える)と情報処理の横軸(やってみるー受け取る)から構成される4つの「学習スタイル」の特徴を学ぶ。	・今回の活動はSSコンピテンシーの「メタ認知能力」の育成に焦点を当てていることを明示する。 ・受動的に知識を「受け取る」だけではサイクルは回らず、能動的に「やってみる」こと、そして失敗から「なぜ?」を考えることの重要性を説く。 ・分野ごとのスタイルの傾向(大まかな傾向として、工学は収束型、人文学は発散型など)も例示する。
30分 (2時限目 冒頭継続)	④「自分の学び」を振り返るワーク(自己分析) ・スクールタクト課題「0221 学び続けるために」を開き、配布された資料「学習スタイル4タイプとその特徴」を読み込む。 ・【個人ワーク(各5分)&グループ共有(各5分)】のサイクルで、以下の項目をスクールタクトに入力する。 1. 現在得意な学習サイクルと理由 2. 将来もっと得意になりたい学習サイクル 3. 現在の自分に当てはまる学習スタイルと理由 4. 将来に向けて広げたい学習スタイルと	・単なる当てはめではなく、「今後の学び方をどうデザインし、自分の弱点をどう補強するか」を意識させる。 ・スライドの具体例(「テスト後の見直しで自分のクセに気づくのが得意＝ふりかえる」など)を参考にさせ、客観的な理由を書かせる。 ※1限の残り30分間で集中して個人ワークと初期の意見共有を行わせる。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	理由	
10分	休み時間	・教員は前半のスクールタクトの入力状況を確認し、2限目のグループワークに向けた机間巡視のポイントを整理する。
【2時限目】		
10分	⑤「自分の学び」を振り返るワーク(続き&全体共有) ・「学習スタイルを拡げるためのアイデア」を各自箇条書きでスクールタクトに入力する。 ・3～4人のグループを作り、自分の特徴と学習スタイルを拡げるためのアイデアを互いに共有・対話する(10分程度)。	・他者の異なる学習スタイルやアイデアを聴くことで、自分にはない多角的な学び方の工夫を取り入れるよう促す。
5分	⑥「学び」を駆動するために(アクションプラン説明) ・これまでのLIFEログを振り返り、次回授業までに実践する「アクションプラン」の作成方法について説明を受ける。	・「学びのサイクルを回しきれなかったこと」や「新たに考えたこと」をベースに、具体的で実践可能なプランを1つ決めるよう指導する。 ・次回授業で「1人2分間の発表」があることをアナウンスし、見通しを持たせる。
15分	⑦ これまでのLIFEログを読み返すワーク ・各自スクールタクト等で、これまでに蓄積してきた自身のLIFEログをじっくりと読み返す。	・過去の自分の「気づき」や「行動の足跡」を辿ることで、プランの種となる自身の課題感や興味関心を掘り起こさせる。
19分	⑧ アクションを考えるワーク ・アクションプランシートの「アクション(実践内容)」のみを本時内で決定し、記述す	・具体的かつ1週間以内で実行・完結できるアクションになっているか机間巡視で確認・アドバイスする。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	る。 ・次回の授業日までに、実際にそのアクションを実行し、残りの「アクション後の気づき」「次につなげる一歩」をシートに仕上げておくタスクを確認する。	・行動の前後での「自分の見方・考え方の変化」や「得られた教訓」を次回までに言語化できるよう促す。
1分	⑨ 次回の予告と連絡事項 ・次回の授業までにスクールタクトのアクションプランを完全に完成させておくこと、および当日は全員2分間の発表を行う旨を最終確認する。	次回はクラス内での相互発表を通じて、自ら学びを駆動させた成果を還元し合う回となるため、確実な宿題実行を呼びかける。